

合理的配慮理解

子どもに劇でユニバーサル
デザイン（UD）を伝える
ワークショップ

事業 2

【1日目】 2023.8.16

まちで出会った「困った体験」「よかった体験」 を出しあい、寸劇にしよう

- 10:00 参加者自己紹介、趣旨説明、研修前アンケート実施
- 10:30 講義「合理的配慮について」
- 11:30 まちで出会った「困った体験」「よかった体験」を出しあおう
- 12:30 ~休憩~（事務局でシナリオ骨子作成）
- 13:00 シナリオ骨子を読み上げ、参加者の発言した内容が活かされているか、違和感がないかを確認しながら、意見交換。
- 14:00 ランチ（カレー）



講義「合理的配慮について」

障害差差別解消法と
合理的配慮

1

障害者権利条約

2006年国連総会で採択

障害のある人に対して特権的な権利を与えたり特別な扱いをしたりするのではなく、すべての人が平等に扱われ、その尊厳と権利を守ること

イランは2009年に加入
日本は2014年に批准

2

「障害者差別解消法」で求められるもの

- 1) 「不当な差別的取り扱い」の禁止
- 2) 「合理的配慮」の提供

・差別的な扱いだけでなく「合理的配慮」を提供しないことも差別になる

5

「合理的配慮」は「使う」という実質を担保するもの

- ・現状では施設整備は不十分（法や基準は万能ではない）
- ・すべてハード整備で対応することはできないが、人の力や社会資源を有効に活用することでその人が使えるようにする
- ・そのためには利用の選択肢を広げ、必要に応じて人が対応する

6

「合理的配慮」とは
reasonable accommodation
(道理にあった 調整)

3

障害者権利条約における「合理的配慮」の定義

「合理的配慮」とは、障害者が他の者との平等を基礎として、すべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適切な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。

4

合理的配慮の提供にあたっては、下記事項に留意する

- ・事務又は事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないこと。
- ・合理的配慮の内容等は、当事者に直接確認していくこと。
- ・合理的配慮の内容は、技術の進展、社会情勢の変化等に応じて変更すべきものであること
(東京都障害者差別解消法ハンドブックより)

7

必要なのは「建設的対話」

- ・双方が納得できる対話
- ・特権的な扱いをすることではない
- ・多数の人を対象とした画一的な仕組みから、個別のニーズを尊重する多様で柔軟な仕組みへ

↓

すべてのまちづくりに共通すること

8

まちで出会った「困った体験」「よかった体験」を出しあおう

■お店・レストランで

・足が不自由な人 | 店に行く時は、よく対応してもらっている。店の人が買った商品の袋を車まで持ってきてくれる。

■銀行で

・車いす使用者 | 銀行に行った時、エライ人の前でサインをする必要があったが、2Fへは階段だけでいけなかった。係の人がエライ人のところにいったが「お客さんが2Fに来られないのは私の問題ではない」と言った。翌日もう一度行くとお客が車いすの人で2Fに行けないことを知り、エライ人が1Fに降りてきて用事が済んだ。

■駐車場で

<昔の出来事>

・車いす用の駐車場 | 車いすではない人が止めていても何もできず、諦めなければいけなかった。

<今の出来事>

・車いす用の駐車場 | 車いすではない人が止めている時、警察に電話すると、止めている車を移動するように注意してくれる。

■タクシーの運転手さんと

・車いす使用者 | イヤな感じはないが、障害者のことを理解していないようで、どうやって手伝ったらいいかちょっと不安に感じているような時がある。

→そんな時は話しかけて、仲良くする。
「私もあなたと同じです」

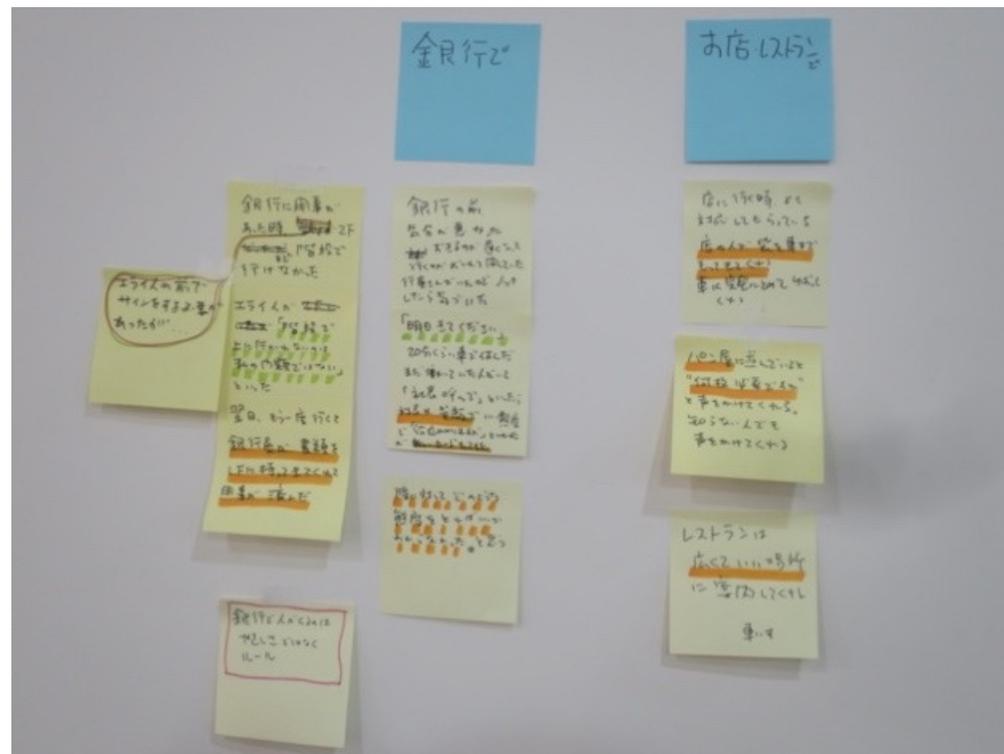
まちで出会った「困った体験」「よかった体験」を出しあおう

■人の気持ち

- ・車いす使用者の若い女性 | 親と一緒に行動しているので不便はないが、人が自分のことをじっと見ることがあって、気持ちが良いくない。
- ・視覚障害者 | 周りの人の偏見を感じるが多かったが、障害があっても1人で行動することを「素晴らしい」と思ってくれる人もいる。ネガティブなことばかりでなく、ポジティブなこともあると思ってもいいかもしれない。

■学校で

- ・足の不自由な男子高校生 | 試験を受ける時、いつもと違う教室で入れなかったことがある。校長先生に相談したら「いつもの教室で受けてください」と言われて、無事試験が受けられた。
- ・視覚障害者 | 目の不自由な子どもは、体育時間、みんなと一緒に行動できないので、教室で1人待っていることがある。自分が盲学校の教師の時、チェスなどをできるようにした。



【2日目】 2023.8.17

寸劇を完成させて、子どもたちの前で発表しよう

- 10:00 集合、昨日のシナリオをもとに、役割分担を決め、肉付けしながらリハーサル。
- 11:50 会場設営
- 12:00 子どもたち入場、寸劇発表会スタート
- 12:40 感想、研修後アンケート実施
- 13:00 ランチ（焼きそばとカレー）しながら交流
- 15:00 終了



リハーサル風景 ↑
大勢の前で発表 →





～寸劇の様子～

まとめ

- 1 障害の有無に関わらず
同じ人間であること伝えられた
- 2 合理的配慮の理解が深まった
- 3 寸劇は効果がある



大勢の子どもや大人が参加



寸劇終了後、みんなの前で一言感想